

さとう健司



ごあいさつ



平成29年11月県議会の代表質問に立ち、会派を代表して県政の様々な課題について知事の対応を質しました。

また、県内各地で毎年のように河川の氾濫や堤防の決壊が起きる中で、着実な河川整備とともに瀬田川洗堰の全閉操作解消や大戸川ダム建設を求める声が上がっています。

こうしたことから、県民の命と財産を守る「県益を最優先する河川政策の推進を求める決議」を提案し、可決しました。本年も皆様のご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

◆平成29年11月県議会◆

未来を見据えた道路整備を求める

Q 道路整備アクションプログラムの見直しにあたって、どのような点に主眼を置くのか？



A 社会情勢の変化に対応して、誰もが安心して移動できる道路環境の整備や高速道路と連携して機能する道路の整備、災害に強く緊急輸送を確実に支える道路の整備が推進されるような計画を策定する。

Q 中長期的かつ広域的な道路整備の方針について？

A 琵琶湖を取り囲むように走る環状の道路を構成する国道1号、8号、161号や大津湖南幹線では課題であった渋滞対策が着実に進んでいる。

一方、これらと直交して連絡する都市部の放射状の道路は、まだまだ整備が必要な状況であり、こうした課題を踏まえ、中長期的な整備を進めていきたい。

Q 大津・京都間のバイパス整備の今後の取り組みは？

A 大津湖南地域から京都への道路は渋滞緩和に留まらず、物流の効率化等の大きな経済効果が見込まれる重要な路線だと認識している。

国やネクスの事業である国道1号粟東水口道路、新名神高速道路が早期に供用できるよう要望や支援を図るとともに、県も粟東水口道路とアクセスする山手幹線を確実に供用させたい。さらに、西へ続く道路交通網の中長期的な整備については、県として滞りなく取り組んでいく。

活動報告

大津・京都間のバイパス整備を推進

平成29年12月、国道1号の新しいバイパスについて国土交通省の担当者との勉強会が開催され、滋賀県、京都府選出の国会議員とともに地域の実情を説明し、早期の事業化を要望しました。



特に、平成25年には集中豪雨で平成27年には大雪で国道1号・名神高速道路・京滋バイパスが全て通号止めになったことから、単なる渋滞対策の観点だけでなく、防災面等での道路の多重性の確保を考慮してほしいと訴えました。今後、建設促進期成同盟会の発足を働きかけていくことを出席者で確認しました。

琵琶湖漕艇場が再生へ

ボート競技の拠点である琵琶湖漕艇場は、2024年の国体・全国障害者スポーツ大会や関西ワールドマスタースゲームズの会場となることが決まっています。



しかし、建築から46年が経過し老朽化が進む中で、県は管理棟や艇庫の改修に留めるとしてきた従来の方針を転換し、新たに建て替えることを明らかにしました。

現地を何度も視察するなど抜本的な再整備を求めてきたのがようやく実を結び、再生に向けて動き出しました。再整備基本計画を策定し、コース等の改善を図っていくこととなります。

活動ギャラリー



建造中の学習船「うみのこ」を視察



金沢大学の自動運転自動車を視察